

平成29年度

自己評価結果

作成 大美野幼稚園

1、本園の教育目標

- ・人とのかかわりを大切にする子ども
- ・豊かな感性と表現力のある子ども
- ・心身共にたくましい子ども

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

「子どもの笑顔と元気は教師の笑顔と元気から」

- ・職員全員の心身が健康で、明るい雰囲気の中で仕事ができるようにみんなで力を合わせる。
- ・学年集団を大切にしながらチーム力を磨き、互いに切磋琢磨する中で指導力を高めていく。
- ・子どもや保護者とのコミュニケーションを大切に、一人一人の子どもの理解に努め、子どもを中心に置いた個に応じた指導を心がける。

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
園運営について ○あらゆるものを見直して、新しい方法や時代に即したよりよい指導を考える。 ・当たり前と思っていることを疑うこと。 ・自分の担当は責任をもって取り組む。互いに仕事は補い合う。 ○初任者、若手教員の指導の充実を図る。	・園行事については主担を明確にし、その主担を中心にチームとして取り組む。 ・初任者が働き甲斐を持って取り組めるよう、学年主任や研修主任はコミュニケーションを深め、初任者の心身のケアに努め、指導力の向上を図る。
○園の施設・設備の整備 ・安全点検 ・外壁工事、玄関前の塀、門の改修 ・学級数の増加や、保育内容、預かり保育、大美野っ子クラブの充実等を図る。	・毎月安全点検を実施し、設備、備品など細部に至るまで点検し改善処置をしている。 ・耐震への対策から外壁工、門の改修工事の実施 ・預かり保育の人員の増加
○子ども一人ひとりに応じた保育の実践 特に特別支援の必要な幼児に対して、保護者との連携を深め、教員研修を深め、組織的に対応し、個に応じた指導を図る。	・キンダーカウンセラーやスーパーバイザー等と連携を密にし、個に応じた指導の在り方を研究している。 ・各学年で年間計画を立て、学期・月毎にカリキュラムの打ち合わせをし、指導の深化充実を図っている。 ・園内、園外研修会に積極的に参加する。
○考える力をはぐくむ保育の実践 「一人ひとりの子どもに考える力をはぐくむことをめざして」 教育活動のあらゆる場面で本園の教育目標の実現に向けてカリキュラムを組んでいる。	・全教諭が研究保育で発達段階に応じた指導、子どもたちの個性、可能性を伸ばす保育を研究している。子どもが中心で主体的な保育の進め方を追求し、子どもたちに考えさせる指導展開をとっている。 ・小学校へのスムーズな接続のため、カリキュラムの見直し ・園行事を通じて、音楽や劇遊び等の表現力を磨く。 ・園外保育や作品展、日常の保育等を通じて、友だちとの関わり

	方を学び仲よく活動することの楽しさを身に付けさせるように取り組んでいる。
○危機管理 設備、備品の整備 防災訓練 職員研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ A E Dの使用法の訓練。救急蘇生法講習会。 ・ 対地震・火災避難訓練を月1回実施 ・ アレルギー児への対応の研修及びエビペンの使い方の講習
○子育て支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 午前7時30分～9時30分 午後2時30分から6時30分まで預かり保育を実施している。長期休業中も年末年始を除いて11時間保育を実施している。 ・ 「ラビちゃん教室」や「ひよこクラブ」を開き、未就園児の園庭開放を実施。 ・ 東区子育て支援ネットワーク活動に参加。 ・ 英語教育教材「サイバードリーム」をバージョンアップし有効に活用している。 ・ 多彩な課外クラブ活動を設け、個性の伸長を図っている。
○PTA 活動の充実 会員相互の親睦を図る中で、共に子育てする保護者同士のつながりをつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊かなPTA研修会や本の貸し出し、園行事の支援等を通して、会員相互のつながりを深めている。 ・ お母さん先生として、遠足や芋ほりの付き添いを依頼し、園児の安全に配慮をいただいている。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
○施設・設備の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○設備の充実を図る ・ アレルギー園児の給食用機の導入 ・ 視聴覚機器の充実と保育の充実を図るため効果のある教材の導入
○地域社会との連携や地域の人材活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登美丘校区4小学校近辺との連携・交流 ・ 大美野っ子クラブの講師として地域の方を招聘 ・ おすもうさんを迎えてのお楽しみ会 ・ 東区子育て支援ネットワーク活動の充実
○教職員の指導力の向上と活性化を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全職員年間1回の研究保育を行い、指導力の向上を図っている。 ・ 園務分掌を工夫して職員の活性化を図っている ・ 初任者、若手教員の指導力向上のための研修の充実 ・ 園外研修への積極的参加 ・ 専門家を招いての園内研修の充実

6、学校関係者の評価

<p>○常に新しい目線で新しいものに取り組み、保護者の意見にも耳を傾けている。</p> <p>○経験豊かな教職員のもと、安心と充実のカリキュラム（英語、体操、躰作法教室等）で保育が行われている</p> <p>○小学校との教員、子ども同士の交流、小学校教育を見据えた幼稚園教育をすすめることで子どもが小学校へ期待と安心感をもって入学できている。</p> <p>○地域の小学校との連携など保護者が求める保育、延長保育、課外保育を充実したことで利用者が増えた。経営の安定が図れる</p> <p>○PTA 活動があり園児が多くの大人とかかわりを持つことができる。</p> <p>○大美野っ子クラブの活動を通して、個性を伸ばしようとしている園の方針がよくわかる。</p> <p>○教職員が一致団結した中で熱心な指導が行われている。また、園児はのびのびと過ごせている。</p> <p>○園児、保護者に対して丁寧な対応をしてくれている。</p>
